

## <パネルディスカッション概略>

### ①大河ドラマ「麒麟が来る」の感想について

**飯泉** 初回いきなり、松永久秀が出てきて「わが主君三好長慶…」と話したときには、びっくりしました。松永久秀は、下克上や悪人の象徴のように描かれることが多いですが、「麒麟が来る」の松永久秀は非常に迫力があってお茶目に、人物味あふれる形に描かれています。いかに大河ドラマが、国民に対して、歴史的人物の様相や価値観、これを大きく変えてしまうのか、その可能性を印象付けられました。いま、なぜ三好長慶を主人公とする NHK 大河ドラマを誘致するべきなのかという点を、みんなで共有できたのではないかと、思っています。

信長、秀吉、家康は3大英傑といわれますが、信長は、支配地の人間を皆殺しにし、自分の家臣を配置します。それと全く逆のやり方をしたのが三好長慶の治世です。戦の強さは末代までは続かない、虐げられた人はいつか反乱を起こすという考えのもと、三好長慶は「和を以て貴しとなす」、地元の民をそのまま受け入れ、さらに宗教観価値観もそのまま認めました。キリスト教に対しても寛大な措置を取っています。三好長慶の在り方は、自国だけがいいという現代の潮流のなか、今こそ求められるものではないでしょうか。三好長慶の治世を、世に打ち出し、今こそこのような考え方が必要なのだと大河ドラマを通じて世界へ発信していくべきではないか、これをポイントの一つにできればいいのではないかと思います。

**濱田** 初回に松永久秀が登場したことは、高槻市でも話題になっています。松永久秀の出自は謎とされていましたが、現在、高槻市五百住（よすみ）町だという説が強くなってきています。五百住町に松永屋敷という地名があったという文献が残っており状況証拠的にそうではないかということで、高槻でも大河ドラマが話題になっています。高槻には芥川山城という三好長慶が天下の政治を執った中心の城があります。芥川山城は保存状態もよく、規模も小さくありません。是非一度お越しください。

**東坂** 地方のために最も効果的なものの一つとして、三好長慶が大河ドラマで主演となり、一年間全国の皆様に親しんでいただくことがいかに重要か、この思いで、今3人が一堂に会しています。

「麒麟が来る」の初回の感想は、まず映像がきれい。本当に美しい映像のなかで、「明智」というこれまでの既存の先入観をクリーンにし、今から明智像を改めて考えてみてくださいと問いかけるようなオープニングに感じました。三好長慶も松永久秀も、すでにたくさんの先入観に色が付けられています。素材も重要ですが、それをどう膨らませていくかは、地域の皆さん方の地域愛、またその人物に対する愛、これにより、その人物の本来の生涯がより大きくフィーチャーされ、花も咲いてくるのかなと思います。いろいろな解説を聞き、皆さん一人一人の三好像や松永像があってもいいと思いますが、大事なはその人達を愛する心、敬う心です。三好長慶は、あの時代に太平の世をイメージしました。これからまさに荒れていくという時代に、太平の世をイメージして、天下人としての日々を送っていました。

私たち首長も見習わなければなりません。

## ②各地でのイベントや取り組みについて

**飯泉** 三好の本拠である勝瑞城館跡は、平成13年1月に国史跡になりました。遺跡を測る場合、池の大きさを屋敷の大きさを測るのが定則です。勝瑞城館跡には巨大な池の跡が発見されました。それまでは周防の国、山口県大内氏の城館跡の池が日本一でしたが、それをはるかに凌ぐ池が出てきました。日本最大と言えるほどの城下の跡が出たということです。それは富の象徴であり、さらに茶の湯道具をはじめとする多くの文化財も出てきました。ということで、県と藍住町が連携して歴史公園として整備し、観光資源として国内外へアピールします。

NHK大河ドラマの前には必ず時代考証が必要だと言われます。これをしっかりしなければ、なかなか大河ドラマには難しく、三好長慶については、歴史的な考証を現在着々と進めているところです。

民間でも、三好長慶武者行列祭りや記念碑の建立、さらに三好長慶会の皆様には長年、検証活動をいただいています。

**濱田** 高槻市は、芥川山城について説明します。芥川山城は16世紀の初め頃、当時の管領、細川高国が築城しました。その後、細川晴元を破って足利義輝を追放した三好長慶が1553年に芥川山城に入りました。1560年には、大東市にある飯盛城に移りますが、それ以降も飯盛城とともに芥川山城は天下の中心として栄えます。織田信長が1568年に上洛しますが、岐阜城を出発した後、近江の六角氏を下します。その後、京に進軍する前に、芥川山城に兵を差し向け、足利義明と一緒に芥川山城に入城します。続いて、信長は芥川山城で天下（畿内）を平定し、ここで新しい武将への領地配分を発表します。約2週間の滞在后、上洛をしますが、これは三好長慶が天下人であったという証拠です。

徳川家康が天下を取る前に伏見城に入るのと同様のアピールであったと思います。

**東坂** ここ10年ぐらい、大東市では「関西城郭サミット」を開催しています。山城の経緯や、石垣の歴史、平城への変遷などを各地の城を持つ地域の学芸員の皆様と毎年テーマを絞り込み展開しています。これが、あまり重要視されていなかった飯盛城の価値を掘り起こし、最近機運が盛り上がってきました。標高314mの飯盛城は、山全体が城、山全体が石垣、そういう壮大な城だということが発掘調査によって史実であったと確認されています。また、大東三好長慶会を組織し、一般市民の方に飯盛城という城の素晴らしさとともに、その城を治めた人物の凄さを傾聴しています。今度開催される三好長慶公の武者行列も各地から甲冑姿で約2000名集まります。この時に三好長慶公役を担う方には、大東市から1年間委嘱をし、様々な場所で三好長慶公に扮し、PRしてもらいます。産学一体となり、三好長慶と飯盛城を理解することで、誇りと愛情が生まれ、そのエネルギーを地域の振興や発展につなげていこうと考えています。

### ③大河ドラマ誘致と歴史秘話ヒストリアについて

**飯泉** やはり時代考証が必要です。「歴史秘話ヒストリア」には、昨年6月19日に「信長よりも20年早かった男、最初の天下人三好長慶」というタイトルで取り上げられています。長篠の合戦で信長が鉄砲を使う以前に、鉄砲を戦術として使ったのが三好長慶軍団です。

大河ドラマに向けては、一昨年6月、徳島県の経済界を中心としてNHK大河ドラマ誘致推進協議会がスタートを切りました。そして、昨年の2月にNHK大河ドラマ誘致推進協議会関西が発足。また、大河ドラマのためには人物の魅力、テーマ性やストーリー性も大変重要になります。ちょうど、本県三好市出身の三日木 人(みかぎじん)先生が新たな本「新三好長慶伝」を出版されました。2022年が、三好長慶の生誕500年ということもありますので、我々がターゲットにするのは、その翌年2023年を狙っていければと思っています。

**濱田** 司馬遼太郎の小説では、織田信長はかっこよく書かれていますが、三好政権の評価はあまりしていません。著名な作家だけに、日本の歴史好きの皆さんのイメージにだいぶ影響しているのではないかと感じます。高槻市としても、大河ドラマに三好長慶をとという機運を高めていかなければならないと考えています。芥川山城は、新100名城にも選ばれていますので、その城をアピールしていきたいです。春の広報誌で三好長慶のカラー特集を組もうかと思っています。

それ以外にも一昨年、芥川山城をレーザー測量しました。国の史跡化に向けて動いていますが、木で覆われているために、航空写真では形がよくわかりませんが、レーザー測量をすると、とても保存状態が良いことが確認できます。芥川山城をまず市民に、そして市外の方にも知っていただく取り組みをしています。

**東坂** 大河ドラマのためには、阿波の英雄ですから、徳島県民の盛り上がりが必要で、高槻・大東で過ごした数年間に実績は残しましたが、やはり三好長慶は阿波の天下人です。ですので、徳島の人々が英雄だと認識することが必要です。

関西全域で誘致し、三好長慶が大河ドラマになることで、徳島の文化が広く世間に広まることは私にとっても嬉しいことです。